小野市教育委員会
（資料７）

地域・マスコミへの対応策（窓口は一本化、憶測・推測で言わない）

危　機　広　報　の　原　則

① 危機発生時にはできるだけ早く、できるだけ多くの事実を伝える。
② 校長をはじめ学校が一体となって参画していることを示す。
③ メッセージを単純化する。
④ 決して嘘はつかない。(事実のみを伝える)
⑤ 被害者に対して同情的である。

危機広報活動のガイドライン

① 正確な情報を提供する。
② 噂が広まらないようにする。
③ 推測による発信は避ける。
④ マスコミ報道の真実等を確認する。
⑤ 定期的にマスコミ機関に簡単な報告をし、新しい情報を提供する。
⑥ マスコミ関係者が直接被害者の家族、他の教職員に接触しないようにする。（窓口の一本化）
⑦ 扇動的な言葉は避ける。
⑧ マスコミの質問をすべて正確に記録する。
⑨ マスコミの締め切り時間を確認し、それに間に合うように記者会見を開く。

□ **質問の予測**
- 現在何が起こっているか。（いつ・どこで・何が・誰を・何を・どのように）
- どのくらい（期間）続いているのか。
- いつから知っていたのか。
- 学校は事態を知って今まで何をしたのか。

□ **質問に対する返答の注意**
- 質問をよく聞く。
- 感情的になってはならない。
- 視聴者が誰なのかを忘れてはならない。
- 返答にはあまり多くの情報は盛り込まない。
- 肝心な情報は省かない。

□ **伝えるべきこと**
- 対策委員会を設置し、問題に取り組んでいる。
- 問題の重要性を理解している。
- 問題解決に責任をもって臨む。
- もっと詳しいことが分かり次第公表する。

地　域　社　会

① **保護者への情報提供**
- 問題を学校のみで解決することに固執せず、日頃から情報の提供をする。

② **ＰＴＡ等との連携協力**
- 学校と保護者や地域代表との情報や意見交換の機会を設ける。

③ **懇談会のもち方**
- 開催時間や開催場所を見直し、多くの保護者が参加できるように工夫する。休日や学校外での開催も検討する。

マ　ス　コ　ミ

① **基本姿勢**
- 取材に対し、学校の方針に反した言動･対応をとらない。
- マスコミ機関各社に対しては、公平な対応をする。
- 取材に対し、誠意をもって、迅速に対応する。とくに記事の締め切り時間に配慮した情報提供に留意する。
- 記者会見等にあたっては、文書によるコメントを必ず準備する。
- 危機事態においても、学校の方針を伝えるという積極的な広報姿勢を堅持して、報道機関に応対する。
- できるだけ早く、できるだけ多く事実を伝える。

② **危機発生時における対応**
- マスコミから取材依頼があったら、電話ではなく直接面談して取材に応じる。
- 報道機関に提供できる情報と提供できない情報を明確に区別して話をすること。嘘やごまかしは不信と批判を増幅させることになる。
- 早い対応を心がける。遅い対応は疑惑を抱かせることにつながる。
- 誤解はその場で解決に努める。報道された情報は独り歩きする。
- 問題を常識的な判断で見る。学校内の常識は社会の非常識の場合がある。
- 記者の視点はその問題についての社会的責任や道義的な責任へのコメントであるので、法律的な見地からのコメントは避ける。
- ダメ押し広報を忘れない。誤報を防止する上での最後の締め言葉である。
- 緊急記者会見のタイミングを逃さないようにすることである。記者会見のタイミング次第で左右されるのである。
- コメント等は印刷物にして渡す。活字情報は客観的で正確な情報を伝えるツールである。